

平将門退治圖會一



13
3295
1



中村定保輯錄
北齋為一畫圖

柳川重信画
玉蘭貞秀画

平將門退治圖會

書林

大坂

群玉堂

合梓

東都

金幸堂

平將門退治圖會

目錄

○卷之壹

第一

經基王源氏の姓を賜ふ

附 多田満仲誕生

第二

貞純親王百龍と化る

附 經基王内裸於て鹿を射る

第三

平將門謀叛公連諫死

附 京都天變怪異

第四

將門純友契約

附 純友勢を聚む

○卷之貳

大正十年八月廿九日寄
本大學出版部贈

第五 藤原純友南海蜂起 附 紀叔人任國下向

第六 大地震并闘雞 附 將門蜂起所々軍

第七 常陸大掾國香最期 附 下野國司出奔

第八 經基王箕田籠城智謀 附 箕田の城再度合戦

○卷之參

第九 將門秀郷對面 附 貞盛東國下向

第十 節度使東國下向 附 貞成血兄弟對面

第十一 貞盛秀郷合體 附 下野宇都宮合戦

第十二 御厩三郎討死 附 下總古河合戦

○卷之四

第十三 廣嶋山合戦將門勝利 附 同所没落辛嶋合戦

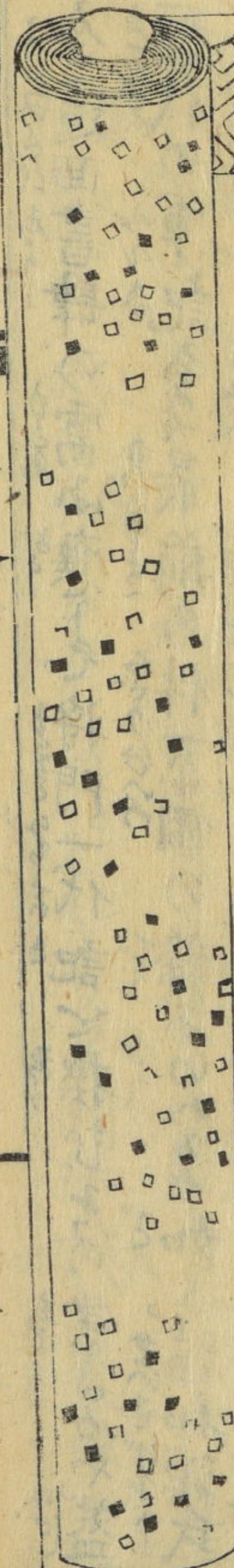
第十四 武藏五郎貞世討死 附 將門最期合戦

第十五 將平將鳥最期 附 諸將上洛恩賞

第十六 將門首獄門小懸る 附 秀郷日光大明神造宮

第十七 倫實南海道下向 附 備前の金嶋合戦

通計十七箇條標目畢



余這回書肆の需小應下。將門一代記と撰むその書もや蓋
歴代の軍記あり。最前の件系圖の條ふのへる如く清和源氏
の廢流ども。夫々の子孫繁茂して幾千万人といふは是を
悉く掲げ出さば牛車も積とも尚餘りあり。然るに鎌倉將軍
家の家譜を專として其技其葉小至りてその姓名をも記さ
る。然るにあきども軍功拔群ふしてその名世小聞えらる人々の技
葉とのどの漏はてあり。其傳記と詳し諸書より参考して後
覽み備ふるの外平藤橘を始め諸姓の人々も源家小拘りたる
悉く載る。まづ其一二を將門の平氏あきども經基王との合
戦あり。純友の藤氏あきども。まづ經基滿仲との戦争あり。因て
經基滿仲の本傳小附屬せり。其後頼義鎮守府の任らる。

安倍頼時父子の叛逆する義家同下任小清原武衡家衡の
の乱と悉く載る。則義家の本傳あり。其外頼信平忠常と
討するが如き皆こと載て洩すとほし。平家世とて二十余年。義朝
亡びて源家の正統と彼所小流竄。在歎無欵の時とのへる其
年歴の序を失ひ。頼朝義仲の起るふ及んで源家又世小
出で鎌倉將軍家の繁栄を記し。その後親王家將軍小任。
北條氏執權らるふ至りて全く源家小拘らるるとも是を省略
より。また年歴の序を紊る。因て北條氏九代の間治乱得失
亡と聊も漏さば是と載る。高時が代ふ至りて新田足利の兩將
起り。鎌倉滅亡より以來の源家の正統世も成盛なり。源氏一統志
の趣意をふ於て存するものあり。それより足利十三代の繁栄永祿



清和源氏之太祖
六孫王經基肖像

天文の頃（一）至るまで諸國諸士の闘戦もその時代々々に應（二）と
悉く承（三）て載（四）て室町家の治亂と解（五）く且（六）軍談（七）あり
ざるものもその時代々々ふの當（八）て世（九）名（十）高（十一）る人の傳記（十二）ハ悉く
本傳（十三）の下（十四）附（十五）して童蒙（十六）稚女（十七）の時代（十八）を知ら（十九）し以（二十）て千載（二十一）不朽
小備（二十二）ふ故（二十三）小此書（二十四）延喜年中（二十五）經基王の首版（二十六）あり永祿（二十七）天文の
間の事蹟（二十八）或（二十九）ひ（三十）精粗（三十一）ありとのへども闕（三十二）と（三十三）載（三十四）と（三十五）本朝軍
記（三十六）と稱（三十七）するもの最（三十八）第一（三十九）といふべしものあり



田原藤太
秀郷



平親王
将門



龍口
内舎人
渡部 綱

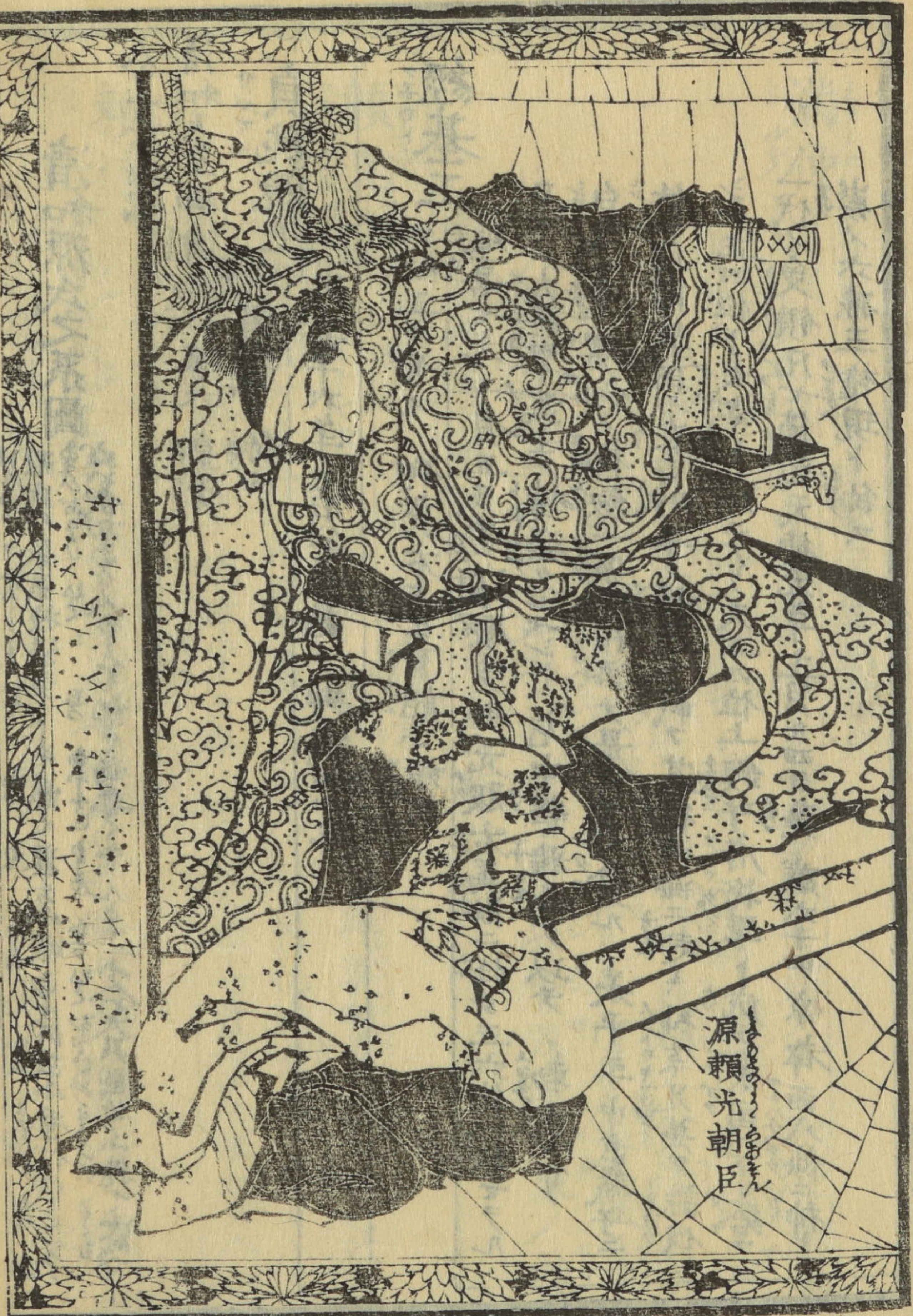
勘解由判官卜部季武



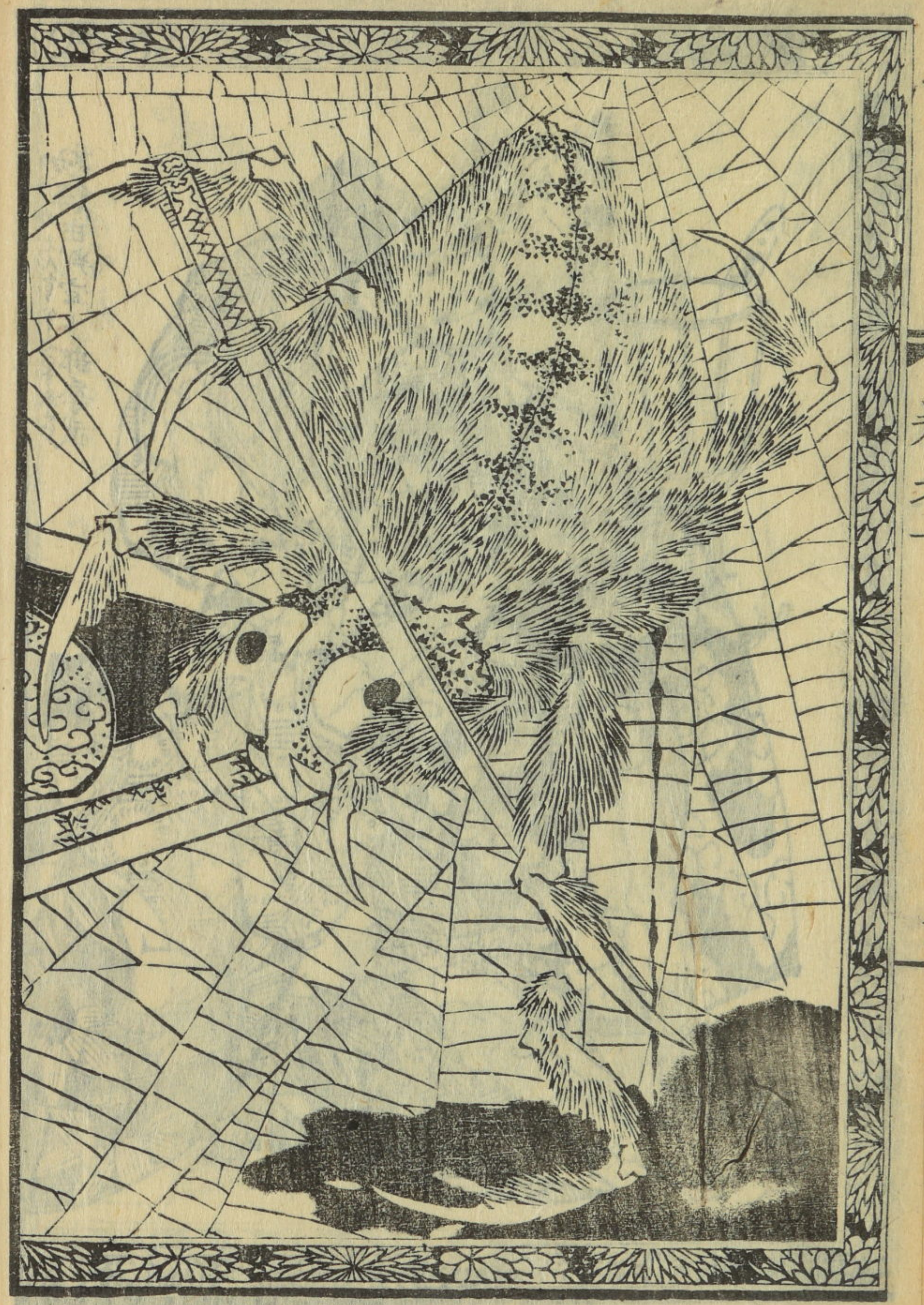
源頼信朝臣

源頼信朝臣

源頼信朝臣



源頼光朝臣



六
龍
一

清和源氏之系圖

源氏の家系枝流... 清和天皇御諱惟仁第六皇子

人皇五十六代 清和天皇御諱惟仁第六皇子

貞純親王

延喜十六年五月七日薨 御歳四十三

經基王

御母八右大臣有能公姫君

延喜七年十月五日常寧殿... 日本大將軍武士棟梁タルベシト 尤中經雅氏ヲ以テ 勅定アリ

滿仲

多田ト号ス 母ハ武藏守藤敦有女

左馬權頭兼伊豫守内昇殿... 乃リ兼テ住吉ヲ信ズ或時參籠シ玉ヒケルニ明神ノ示現ニヨリ 鏑矢ヲ 發シ其矢虚空ニ飛テ撲多田ノ庄ニ池アリ 九頭ノ蛇柵テ人ヲ害ス其矢 コニ来テ大蛇ノ頭ニ中テ死ス則九頭明神ト祀リ其所ヲ莫シテ城壘ヲ 搆フ天禄元年三月十五日此城ニ移ル是ヨリ子孫繁茂シテ武家ノ棟 梁ト仰ガレ玉フ長徳三年八月卒ス歳八十八

頼光

童名文珠丸 母近江守源俊女

天禄元年十七歳ニテ家督 武勇聰明ノ良將軍功アリ就中大江山ノ 酒顛退治市原野ノ鬼同丸等ガコトハ人ノ知ル所也内昇殿ヲ聽サレ凡 九箇国ノ受領ヲ經テ撰津守ニテ卒ス治安元年七月九日歳六十八

頼信

實滿仲五男 舍兄頼光ノ養子トナル

冷泉院判官代甲斐守鎮守府將軍河内守從上四品内昇殿ヲ聽サル 凡テ六箇国ノ受領ヲ經テ永養三年九月一日卒歳七十四法名蓮心

頼義

童名千手丸 母ハ修理命婦
十二歳ノ時晴ノ的ヲ 天覽ニ備フ正四位下鎮守府將軍伊豫守奥州ニ
於テ九年ノ鬪戰軍功比類ナシ中ニ天喜五年六月七日諸軍渴ニ臨ム
將軍ヲ踏ヲ以テ岸ヲ穿テ玉ハバ忽澧水涌出テ其渴ヲ助シ古今稀
有ノ功ナリ 永保二年十月三日卒歳七十九法名信海入道

義家

童名源太丸 八幡太郎 母平直方女
從五位下出羽守從四位上左馬權頭正四位上前陸奥守鎮守府將軍
内昇殿ヲ聽サル弓馬ノ達人智仁勇兼備ノ良將多リ弓勢ヲ以テ武威
ヲ輝ス事度々ナリ奥州後三年ノ鬪戰軍功未代ノ龜鑑タリ長治二年
七月四日剃髮法名了信同八月十八日卒歳六十八 天仁元年八月壹井
八幡宮ノ西ニ頼信頼義義家ノ吳ヲ祀三社ノ廟トス

義綱

加茂次郎 母ハ義家ニ同ジ
左衛門尉美濃守無実ニ依テ近江国甲賀山ニ遁籠戰負テ降參ス

義光

新羅三郎從五位下左兵衛尉 後刑部少輔入道 母ハ二位法印尊長
女 弓馬達人名将ナリ奥州へ下向兄義家ニカラテ度々軍功アリ
大治三年十月六日卒歳七十二 武田逸見 安田加々見等ノ祖枝流尚
多シ

義忠

左馬助河内判官 義家ノ家督多リ 叔父義光其權威ヲ妨ミテ鹿島
三郎吉連ヲ語レヒ竟ニ害セラル 歳三十九

義國

式部大夫 童名陸奥四郎 實ハ義家嫡子義親ノ子也為義忠養子
新田足利ノ祖枝流多シ

為義

六條判官 從四位下 陸奥ノ國司ヲ望トイ下モ父祖鬪戰ノ地ニテ不祥ナリト御許ナシ故ニ

生涯受領セトナシ 智勇名譽ノ將ナリ 保元ノ合戦ニ新院ノ御味方ニ參
戦ヒ利ナクシテ子息義朝ヲ頼ミ降人ニ出ル 竟ニ六條河原ニテ討ル 法名
義法房 歳七十餘

義朝 左馬頭 從四位下

武勇絶倫 智謀ノ良將ナリ 保元ノ合戦ニ軍功アリ 内昇殿ヲ聽サル 平治
元年 惡右衛門督信頼ニ與シ戦ヒ利ナクシテ尾州野間内海長田館ノ
浴室ニテ討ル 歳三十八

義賢 春官帶カ先生 秩父二郎大夫 重隆養子
久寿二年八月十二日 於武易比企郡義平ガ為ニ討ル

義仲 童名駒王丸 木曾中三権頭 養ヒ育テ木曾冠者ト稱ス
北國ノ大將トシテ平家ヲ浴ヨリ追落ス 智勇比類ナシ 寿永二年十二月十日

征夷大將軍從四位下行伊豫守ニ任ズ 敵慮ニ乖キ朝敵ト成テ頼朝ト

戦ヒ近江國粟津ガ原ニテ石田爲久ガ矢ニ中テ死ス 歳三十一

義高 志水冠者 母ハ中三権頭兼遠女

頼朝ノ養子大姫ノ尊也 木曾滅亡ト聞テ營中ヲ忍ビ出 堀藤次親
家ノ郎等藤内光澄武州入間川原ニテ討奉ル 其後大姫ノ憤リ深ク光澄
誅セラル

義廣 志田三郎先生 檢非違使右工門少尉
伊賀国ニ於テ平貞時ガ為ニ誅セラル

頼賢 四郎左工門尉 保元元年七月廿九日 船岡山ニテ誅セラル
義房 淡路冠者

頼仲 掃部助 全上 頼秀 掃部冠者 淡路二
住ス同討ル

爲宗 六郎 全上

為成 七郎 全上

為朝

鎮西郎 保元ニ父ト同ク新院ノ御味方多ク軍敗レテ虜トナリ誅セラル
ベキノ処其武勇天下無双ナルヲ惜ミ伊豆ノ大嶋ニ流サレ逆心ノ聞アルニヨリ討
手向フトキ、海岸へ出テ最期ノ一矢シテ敵ノ眼ヲ覺サセトテ彼強弓ヲ携へ
キリト引絞リ切テ放ツ其矢兵船ノ胴ヲ射貫テ矢ハツト抜タリ其矢ノ目ヨリ
水漲リ入テ三百余人溺死多リトナシ古今無双ノ精兵前代未聞未代モ
有ダカルベシ夫ヨリ館ニ火ヲカケ子息ヲサシ殺シ自害シテ死ス 安元二年
三月六日 歳三十八

為頼

鳥冠者

為家

大島二郎

為仲

九郎 船岡山ニテ誅セラル

行家

初ハ新宮十郎義盛 八條院藏人

龜若丸

波多野次郎義通使ニテ是ヲ誅ス

鶴若丸

船岡山ニテ誅ス

義次

加茂冠者

慈應

護念上人

乙若丸

船岡山ニテ義朝承テ誅ス 最期ノ一言最善

天王丸

全上

圓忍

鞍馬寺僧一和尚 東光坊阿闍梨

義平

鎌倉源太 母ハ橋本ノ遊女 叔父義賢ヲ討テ惡ノ字ヲ被ル平治ノ乱ニ切リトイヘ斥竟ニ軍敗レテバ 落人トナリ其後虜トナリ 永曆元年正月廿六日六條河原ニ於テ難波 大郎ニ切ラル其冥雷トナリ 後ニ難波ヲ撃殺ス

朝長

中宮太夫進 母ハ波多野義通妹坊門ノ姫ト云 平治ノ乱ニ流夫ニ申テ行歩不叶濃焉青墓大炊ノ元ヲ父ガ手ニ懸殺 歳十六

頼朝

久安三年四月八日尾張国幡屋ニテ誕生 母ハ熱田入宮司季範女 平治ノ乱ニ十三歳ニシテ初陣ナリ軍敗レテ虜トナリ兄弟一齊ニ誅セラルベリ

シラ池禪尼強ニ歎キテ助命セシ伊豆國北條姪ガ小嶋三流サル夫ヨリ二十
余年ノ星霜ヲ經テ沙門文覺ガ勸ニヨリ義兵ヲ發シ目代兼隆ヲ討後敗
北シテ石橋山ニ隱レ夫ヨリ上總へ渡テ軍勢ノ從屬ヲ下水下レ就ガ如シ舍弟
範頼義經ノ兩將平家ヲ西海ニ亡シテ天下平均ス文治元年日本惣追補
使トナリ諸國ノ武士ヲ御家人ト云
正二位大納言右近衛大將征夷大將軍 治世元年正治元年正月十三日薨
歳五十三

義門

宮内丞早世
母八頼朝二同シ

希義

福田冠者 又土佐冠者 母八頼朝二同シ
壽永元年十二月朔日自害

範頼

蒲冠者 從五位下三河守 母八頼朝二同シ
平家追討トシテ舍弟義經ト俱ニ西海ニ進發シ軍功アリ建久四年
謀叛ノ志ル由聞工頼朝ヨリ尋問アリケレバ起請文ヲ以テ異心アリキ

旨申ストイヘ氏許容ナク伊豆國へ配流後ニ誅セラル

全成

童名今若 母八九條雜仕常盤
醍醐惡禪師 阿野法橋ト云 奈良ニ於テ得度ス

義圓

童名乙若 母全上 八條卿公圓齊
養和元年三月墨股合戦ノ節陣中ニ懸入戦死

義經

平治元年誕生 童名牛若 母全上
九郎冠者 七歳ノ時鞍馬ニ入東光坊阿闍梨ノ弟子トナル傳ニ云僧正ガ
谷ニテ天狗ニ兵法ヲ學ブト云又鬼一法眼ニ軍書傳授ス兼安四年奥劔ノ五
商人橋次末春ト俱ニ奥劔へ下リ秀衡ヲ討ム舍兄頼朝義兵ヲ奉ト聞テ
奥劔ヲ出テ舍兄ニ對面アリ範頼ト俱ニ西海ニ赴キ鴨越八嶋等ノ戦ニ英雄
智謀百世ニ冠タリ内昇殿ヲ聽サレ伊豫守ニ任ズ文治元年十月十八日館官同
三年ノ比奥州へ下リ秀衡ヲ討テ衣川ノ館ニ安堵シ至テ秀衡卒去ノ後同五年

閏四月卅日泰衡が為ニ敗績ス妻子ヲ害シ行方ヲ知ラズ東夷ニ落行夷人敬ヒ冊ク後ニ義經大明神ト崇メ今ニ於テ氏神ト尊崇ス

乾氏 南都ノ象徒 母勸修坊女

頼家

童名万壽君 母平政子北條時政女 壽永元年八月誕生

正治元年正月十八歳ニテ家督右少將次弟ニ轉任 從二位征夷大將軍 建仁三年八月病ニ依テ御子一萬君ニ東大八箇国実朝ニ西三十八箇国ヲ讓給フ剃髮執居ス元來墮弱ノ暗將ナリ北條父子ガ謀計ニ伊豆国修禪寺ニテ我ス治世五年 歳二十三

一萬

母比企判官義負女頼家東大八箇国ヲ讓ル能負外戚ノ權ノ以テ千幡君ト時政以下ヲ討ントシ事見ルテ母子氏ニ誅セラル

千壽

泉小次郎親平取立テ北條ノ一族ヲ滅サント計ル 安念ガ白狀ニ依テ親平討テ討殺シ逃去ル

公曉

童名善哉 鶴岡別當阿闍梨 母賀茂六郎重長女為朝孫女

兼久元年正月九七日実朝右大臣拜賀之時雀岡石階ノ際ニ於テ実朝ヲ討長尾新六定景討手トシテ雀岡ノ後面ノ峯ニ於テ阿闍梨ガ首ヲ梟ス 歳十九

貞曉

前仁和寺法印 母常陸入道妹

寛喜三年二月廿二日高野ニ於テ入滅ス

實朝

童名千幡君 母平政子 建久三年誕生

元久元年三月右少將從五位下征夷大將軍次弟ニ轉任建曆六年十二月右大臣ニ任ズ 兼久元年正月廿七日拜賀ノ時阿闍梨公曉ニ討ル治世十七年 歳二十八

頼經

童名三虎御前 干時二歳 実九條允大臣道家公ノ三男

關東ニ下向シテ實朝ノ箕裘ヲ嗣 征夷大將軍寛喜三年四月辭職飯京

頼嗣

頼經長子六歳ニシテ父ノ箕裘ヲ嗣 寛喜二年四月征夷大將軍 建長四年辭職飯京

撰津守頼光ノ長子

○頼國 右馬頭下野判官從四位下美濃守

母ハ伊豫守藤元平女 撰為二任ス

頼綱 多田元衛門尉從四位下三河守

母ハ尾張守仲清女

仲政 兵庫頭從四位下

母ハ一條女房中納言局

頼政 源三位兵庫頭入道頼圓 母ハ勘解由次官藤友実女

文武達人ナリ一世ノ秀歌甚多シ武功最度タル中仁平元年四月鶴ヲ射テ
御劔ヲ賜ル治養四年高倉官ヲ勸參ラセ平氏ヲ滅サントス事見ハテ洛ヲ落宇治
ノ合戦ニ利ヲ平等院ニ於テ一旗從類ト俱ニ自害ス 歳七十六 古跡和歌アリ其

仲綱 伊豆守 藏人母ハ葛蒲

父ト一所ニ討死

兼綱 源太夫判官 母ハ金上

父ト一所ニ討死

仲宗 六條藏人 実古義賢ノ嫡子頼政養子ナリ

頼兼 源藏人太夫 關東ニ下テ頼朝ニ仕フ

凡例

右小見しる系圖ハ前もりし如く此軍記第一の人のとて奉て其餘省
けり故小壁其の子五人ある三人ハ記ニ入レ洩モ其三人ハ英雄前て其名
高く凡て軍記小拘るが故の也。二人ハ虚弱或ハ早世或ハ生害事ありて言記ナク
條のありて系譜ハ省て載さず者官怪とるれ其他女子一人ハ記ナク
其系譜の繁雜とて視安くもめんが為の也。然ハ義朝の息女三人のち
一人ハ鎌田政家ガ女小害し一人ハ後藤兵衛実基預り一人ハ身と投て死を
頼朝ガ息女大姫ハ志水冠者ガ妻室と義仲ガ妹於菊姫ハ頼朝の養
子とあり。義経の息女ハ衣川也父ガ手に懸殺を頼家が息女ハ頼経將
軍の御臺とあり是等の傳記ハ其條下洩モる也とのハ系譜ハ省て
平氏貞盛以下清盛の家系も執權北條氏等ハ家系其條下小至りて見也

○頼光の長子頼國の系を別み摸出せし源三位入道が家系を知りしゆが為ん
 ○此書の前太平記本朝通記歷代備考國史畧等の諸書に参考し多く
 誤謬を訂し且乎歴異同ありて其の所必辨しされど卑陋の臆見ま
 過らざるものありて後の博覽尚正にあら幸甚あらん
 ○本書往々その緯の似たる所公和漢の古史を引用して辨する処屢ありと
 いふもの書元來大部を縮て簡易あらんを言旨とす夫等の省て
 載ざるもの且宣言牒狀の類或は公卿致仕の表等々其事實の之を
 挙て其文章を漏し頗る遺憾の似たりものもその文辭の巧拙を味み
 が為めり幼童婦女子小解易らび因て今于茲省けり省官必ばし怪
 めりしものれ

曲亭子欽白

